NIE実践報告

1．タイトル：☆NIEディベートを通して「問い」の大切さを学ぶ

2．学校名

大阪府清風高等学校

3．実践者名（代表者名）

鎌田隆

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

35人

6．単元（本時の学習課題）名

新聞記事からディベートのテーマを見つけ出す

7．目標(狙い)

どのような「問い」を立てることが議論を深めることにつながるのかを考えさせ、生徒間の意見交換と教師の検討を通して、「問い」の大切さに気付かせる。

8．評価の視点

ディベートにふさわしい「問い」を適切に立てられるか。また、その「問い」を立てた理由を明確に発表することができるか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

新聞を利用したディベートのための準備を行う。(準備の2時間目)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①今時の課題は、班ごとに新聞の話題からディベートにふさわしいテーマ(問い)を考え、発表することであると説明する。
②実際に新聞を用いて事例を挙げながら、どのような「問い」を立てるのかによって議論の展開や「答え」に違いが出てくることに注意を促す。
③班ごとに手分けして新聞記事を探させ、テーマ案を考えさせる。テーマ案は、ディベートが可能な問い(肯定・否定が明確になるもの)にすることを確認する。
④班ごとに各自が選んだ新聞記事と考えたテーマ案について意見交換をさせ、ディベートに採用する記事とテーマを決めさせる。
⑤各班が採用した記事とテーマを板書させ、順番に発表させる。
⑥各班の発表を受けて、それぞれ記事の話題の補足と問いの検討を行う。
⑦各班の提示したテーマについて、現時点での賛否を問い、ディベート準備の参考にさせる。賛否に極端な偏りがある場合は、問いの再検討を促す。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

限られた時間の中で、各班がよく相談をしながら記事の選別、テーマ設定を行い、発表までこぎ着けていた。問題意識を持って考え、意見を述べる生徒が何人も見受けられた。

12．成果と課題

各班が提示したテーマは、「学力テストの成績を開示すべきか」「成人年齢を引き下げるべきか」「死刑制度は廃止すべきか」「護身用のナイフは必要か」「太平洋戦争は侵略戦争だったか」の5つで、それぞれに興味深かった。これらのテーマを踏まえたディベートは、12月の期末試験後にホームルームで実施した。間が空きすぎてしまったために、やや関心が薄れているように思われた。